

第5学年道徳科学習指導案

平成29年11月15日（水）第5校時

場所 5年教室

指導者 下 綾那

研究主題

自分の思いや考えを表現し、伝え合う児童の育成
～書く・話す・聞く活動を通して～

1 主題名 誠実な生き方 内容項目1－（4）正直誠実・明朗

2 資料名 「手品師」（出典：5年生の道徳 文溪堂）

3 主題設定の理由

○ 児童について

本学級の児童18名（男子11名、女子7名）は、高学年になり、自分の良心に従って行動することの大切さを理解することができるようになってきている。しかし、自分自身に正直であるからこそ、明るい生活ができるということは、あまり理解できていないように感じる。約束を守らなかったときには、「自分だけじゃない」と自分の立場を優勢に考えて他人にも責任を押しつけたり、その場しのぎの言い訳を考えてごまかしたりすることも少なくない。また、集団の中での自分という意識が少なく、自分の損得ばかりを考えて行動してしまう児童もいる。

○ 主題について

本主題は、小学校学習指導要領の内容項目1－（4）「誠実に、明るい心で楽しく生活する。」を中心に構成されている。誠実さとは、人が見ていても、見ていなくても、自分の良心に従い、真心をもって行動することである。また、「正直」や「誠実」といった事柄は、自分自身の生活を明るくするために不可欠なものである。このように考えると、誠実に生きることは自己を向上させることにつながるとともに、他者や集団とともに明るく楽しい生活を送ることができるようになるためには欠かせないものであると考える。この時期の児童は、誠実に行動することの価値には気づき始めている。しかし、志を立てて努力してきても、生きていく上で、より多くの人から賞賛を求めることを目標としがちである。そのため、自分に正直に生きることを忘れ、ごまかしや手抜きをしても見栄えさえ良ければ、結果さえ良ければ満足してしまうような生き方をするようになる。本来目指していた高い志を持ち続けることの大切さや尊さを知ること、大きな選択を迫られたときに、自分に正直に生きることでできる方を正しく選択できることが、これから生きる上で大切であると考え。多くの賞賛がなくても、本当に求める自分の生き方を見つめ、自分が納得する選択ができるようになってほしいと考え、本主題を設定した。

○ 資料について

本資料「手品師」は、腕はいいがあまり売れない手品師が大劇場のステージに立てるチャンスを得て、自分が男の子と交わした約束を守るという内容の話である。手品師にとって夢の実現は人生の大きな目標であるがゆえに、そう簡単に投げ出せるものではない。それにもかかわらず、手品師が男の子との約束を大切に思い、守ったのは、手品師が本当に求める生き方を守りたかったからである。

自分の夢か、男の子との約束かという手品師の葛藤場面で、手品師の心の葛藤を自分に置き換えて捉え、手品師の気持ちや行動について考えさせることで、主題「誠実に生きる」に迫ることができる資料である。

○ 指導観

- ・主題に迫っていけるよう、資料の読み取り・場面設定の確認を挿絵や会話文を用いながら丁寧に行う。
- ・児童が他の人の考えに触れ、その意味を考えたり、自分の考えを自信をもって話したりすることができるよう、3～4人でのグループ学習をまず行い、その後に全体での意見の交流を行う。
- ・価値判断をレベルごとに分けた板書を行うことで、考えをより比較しやすいものとし、よりよい生き方について考えられるようにする。
- ・「自分の夢より男の子との約束を選んだ手品師についてどう思うか」を考えることで、これまでの自分を振り返ったり、これからの自分について考えたりして、自己の生き方を見つめさせるようにする。

4 本時案

(1) ねらい

手品師が男の子との約束を守る方を選んだわけを考え、伝え合うことにより、自分自身に誠実に生きることの大切さに気付くことができる。

(2) 本時でめざす児童の姿とそこに至るための仮説

手品師が男の子との約束を守る方を選んだわけを考え、伝え合うことにより、自分自身に誠実に生きることの大切さに気付けるのではないかな。

(3) 準備物 (教) 紙芝居、挿絵、ワークシート

(4) 展開

過程	学習活動・学習内容	○教師の支援 ☆評価
つかむ 10分 ／ 深め 25分 ／ 高め 10分	1 本時の学習の主題を知り、読み聞かせを聞く。 ・誠実の意味 ・場面の把握 ・問題場面の絞り込み	⑧約束をしていたのに、自分勝手な都合でそれを破ったことはありますか。(アンケートの活用) ○「誠実」の意味を伝え合うことで、言葉の意味も考えのより所にできるようにする。 ○約束をした場面について挿絵や文章中の言葉を用いて板書する。男の子との約束は、手品師にとっては大切な約束であることを押さえる。
	2 迷いに迷う手品師の気持ちを考え、ワークシートに記入する。 ・夢も大事だけれど男の子との約束を守る方が大切。 ・男の子との約束を守ることが大切だ。 ・どうして約束なんてしたんだろう。 ・手品師の選択に対する感想の交流	⑧迷いに迷う手品師は、心の中でどんなことを言っていたと思いますか。 ○自分の考えをワークシートにまとめる時間を確保することで、手品師の心の葛藤を深く考えられるようにする。 ○どちらの選択も大切なこと、一方に決めることの難しさを押さえ、次の活動につなげる。 ○感想から、手品師の選択に対する様々な思いを引き出し迷いに迷う手品師の気持ちに共感できるようにする。
	手品師はなぜ男の子との約束を選んだのだろう。 3 どうして手品師は、男の子との約束を選んだのか、その理由をワークシートに記入する。 ・男の子が悲しむから。 ・約束は守らなければいけないから。 ・大劇場に行って手品をしても、後悔が残るから。 ・自分に正直でいたいから。 ・誠実でいることが大切だから。	⑧なぜ手品師は男の子との約束を選んだのでしょうか。 ○「受話器を持ちかえると、きっぱりと言いました。」の言葉に着目させ、手品師の心に迷いが無くなったことに気付かせる。 ○3～4人のグループで意見を交流することで、多様な価値観やその意味を知ったり、自分の考えを自信をもって伝えたりできるようにする。 ○夢を選ぶ方がいいと考える子どもがいた場合は、それも認めつつ、補助発問として「もし大劇場のステージに立ったらどんな気持ちで手品をしただろうか。」と補助発問をしたりして、考えを深めさせる。 ○価値判断ごとに分けた板書を行うことで、考えをより比較しやすいものとし、よりよい生き方について考えられるようにする。
／ 高め 10分	4 本時の学習をふり返り、自分の考えをまとめる。 ・約束をしたときにはそれを必ず守りたい。 ・もやもやするよりすっきりするから、友達に対して嘘をつかずに正直でいたい。 ・手品師のように、自分に正直生きる選択をしていきたい。	⑧今日の学習をふり返って、手品師の生き方から学んだこと書きましょう。 ○悩んだ末の自分の決断に対し、すがすがしさや未練を感じる手品師に共感させながら、誠実であることの大切さについて考えを深める。 ○手品師の生き方について自分なりの考えをもち、学習を通して感じたことや思ったことを書くようにさせる。 ○手品師の選択に疑問をもつ児童がいた場合でも、その考えを認める。 ☆自分の心に誠実に行動することの大切さに気付くことができたか。(観察・ワークシート・発表)